

2026年4月14日

## 最近の長野県経済の動向 (月例調査)

### 概要

全国景気※	緩やかに回復しているが、中東情勢の影響を注視する必要がある
長野県内景気	生産面など一部で弱さがみられる
1月の生産動向	生産は減少している
2月の個人消費	乗用車新車販売台数は2カ月連続で前年を下回る
2月の公共投資	公共工事保証請負額は2カ月ぶりに前年を上回る
2月の住宅投資	新設住宅着工戸数は3カ月連続で前年を下回る
2月の雇用情勢	有効求人倍率は2カ月ぶりに前月を下回る
今後は、中東情勢の悪化に伴う資源価格上昇の影響を注視する必要がある	

※内閣府「月例経済報告(2026年3月)」より

照会先

一般財団法人 長野経済研究所 調査部

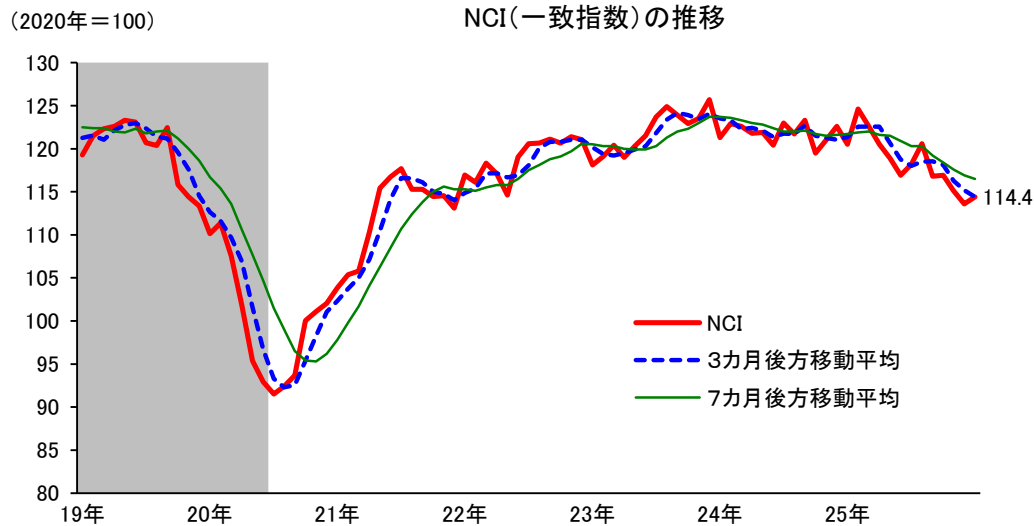
担当 桑井、須田

電話 026-224-0501

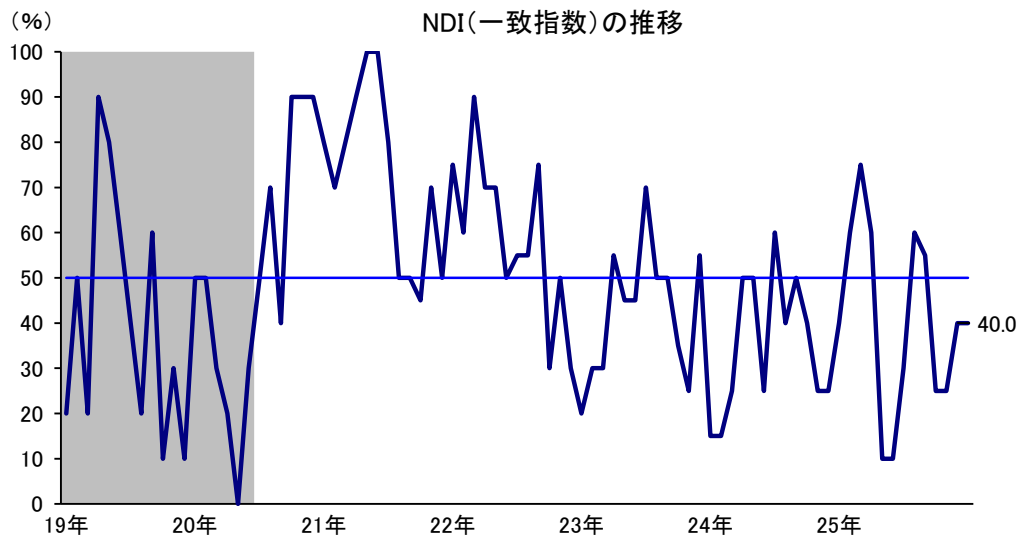


## 景気動向指数

- ・1月のNCI(一致指数)は、114.4と前月と比較し+0.8ポイントとなった。3カ月後方移動平均は、同△0.8と4カ月連続で、7カ月後方移動平均は、同△0.4と5カ月連続で、それぞれ低下した。NCI(一致指数)は、悪化を示している。
- ・NDI(一致指数)は、40.0%となり、景気判断の分かれ目である50.0%を4カ月連続で下回った。



(資料)当研究所「長野県景気動向指数」  
 (注) 1.NCIは長野県の景気変動の大きさやテンポ(量感)を示す  
 2.シャド一部分は長野県の景気後退期を示す

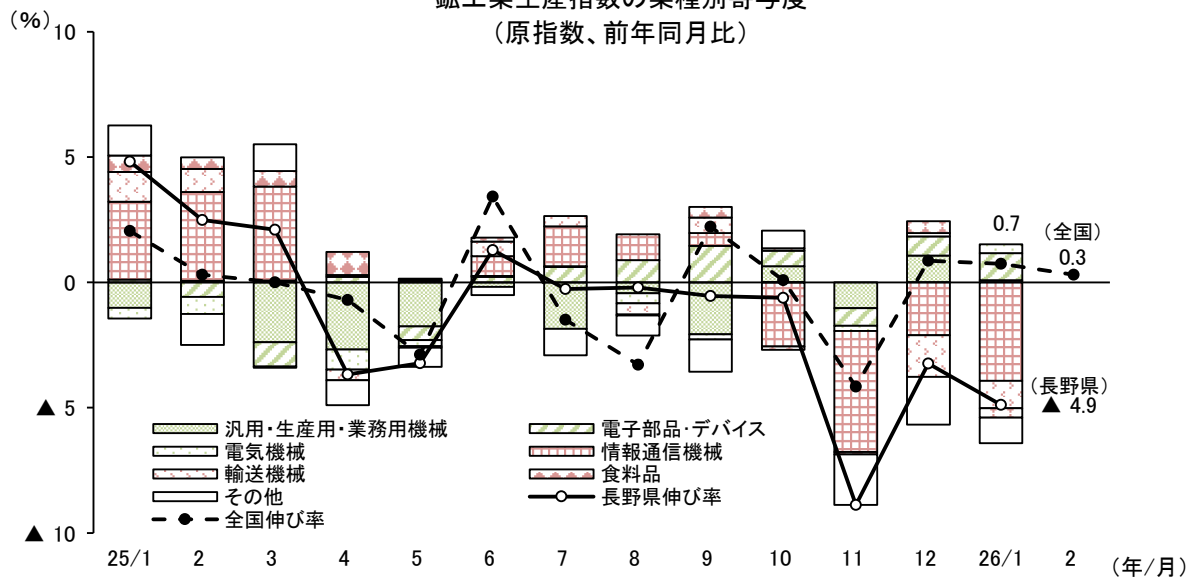


(資料)当研究所「長野県景気動向指数」  
 (注) 1.NDIは長野県の景気の方角、波及度合いを示す  
 2.シャド一部分は長野県の景気後退期を示す

## 生産は減少している

- ・1月の鉱工業生産指数は、原指数が前年同月比△4.9%、季節調整済指数が前月比+3.1%となった。
- ・季節調整済指数は6カ月ぶりに前月を上回った一方、原指数は7カ月連続で前年を下回った。中国景気の低迷やIT関連需要が低調に推移する中、車載関連向けでも半導体不足の影響などがみられることから、生産は減少している。
- ・主要業種別に見ると、「電子部品・デバイス」「電気機械」が前年を上回ったものの、「情報通信機械」「輸送機械」などが前年を下回った。

鉱工業生産指数の業種別寄与度  
(原指数、前年同月比)



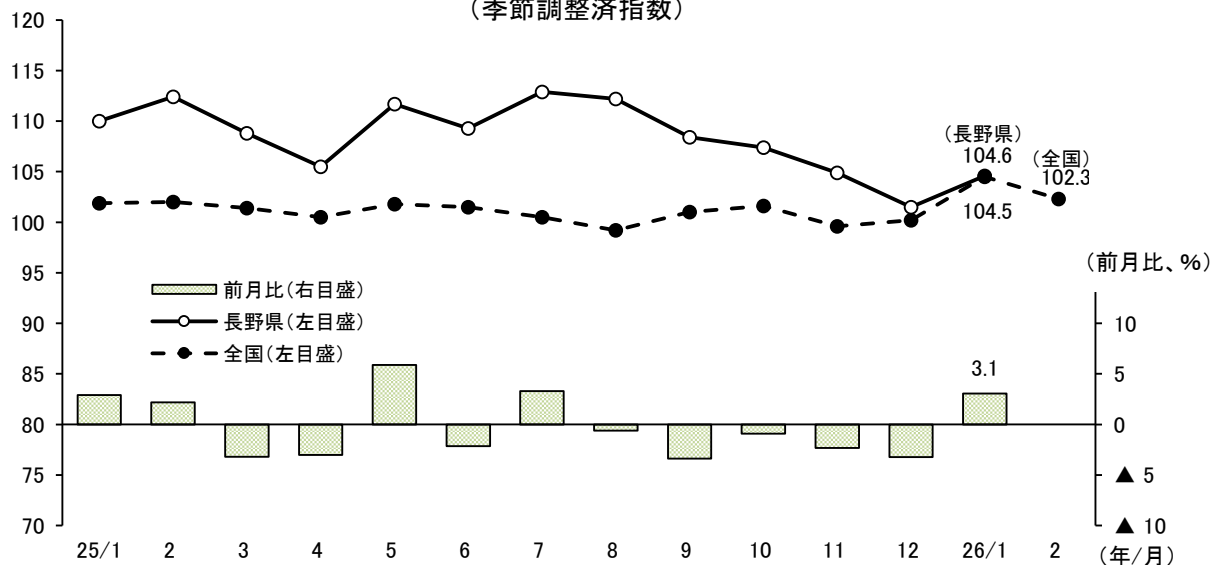
(資料)長野県企画振興部総合政策課統計室「長野県鉱工業指数」、経済産業省「鉱工業生産指数」

(注1)全国伸び率:26年2月分は速報値

(注2)全国については、年間補正等に伴い2025年以降のデータを更新した

(2020年=100)

鉱工業生産指数の推移  
(季節調整済指数)

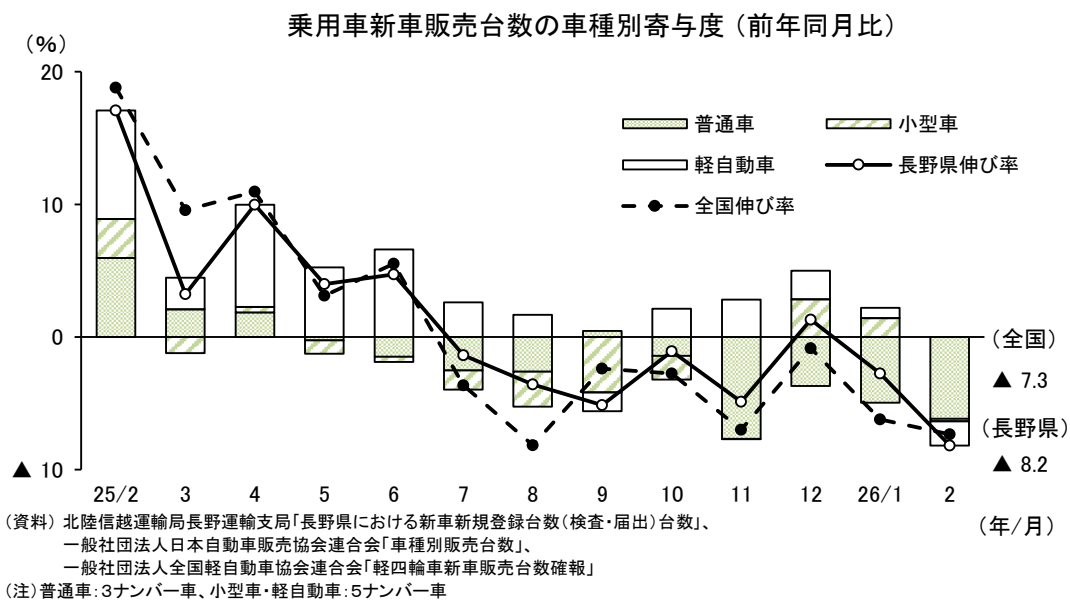
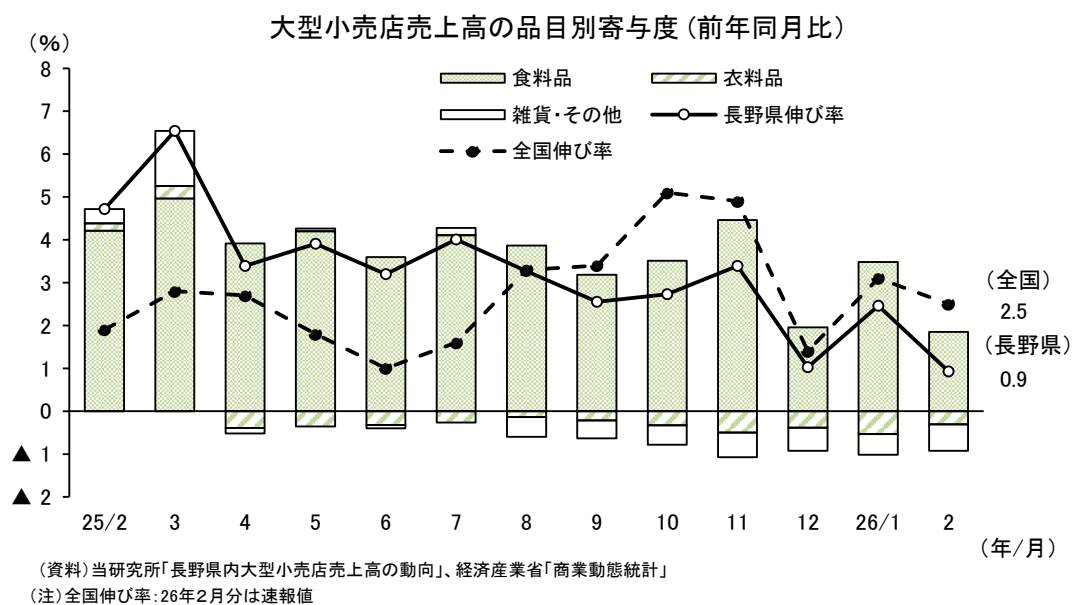


(資料)長野県企画振興部総合政策課統計室「長野県鉱工業指数」、経済産業省「鉱工業生産指数」

(注)全国:26年2月分は速報値

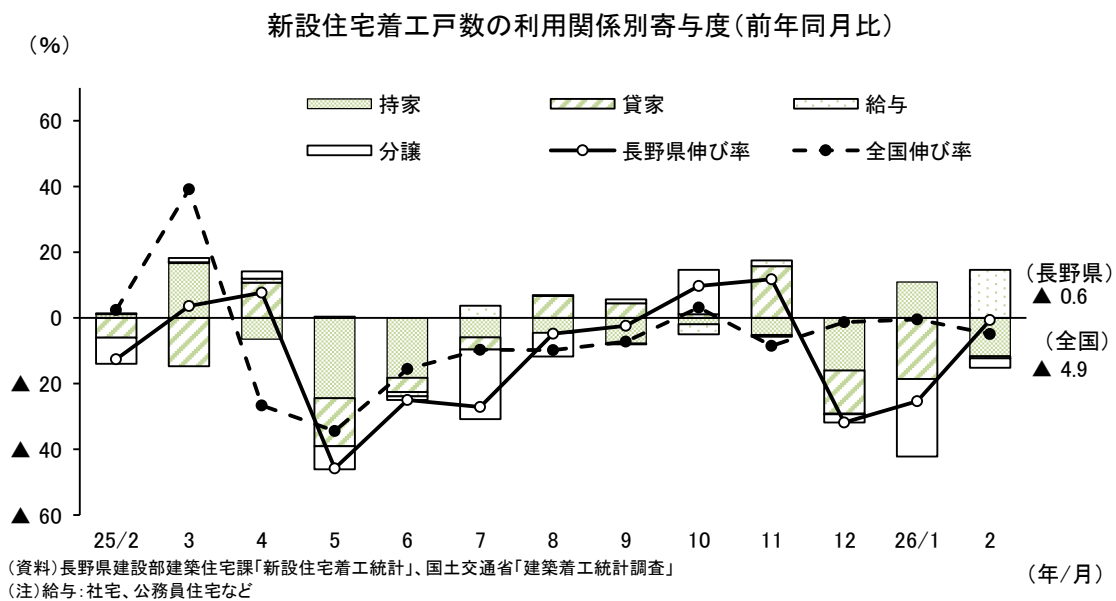
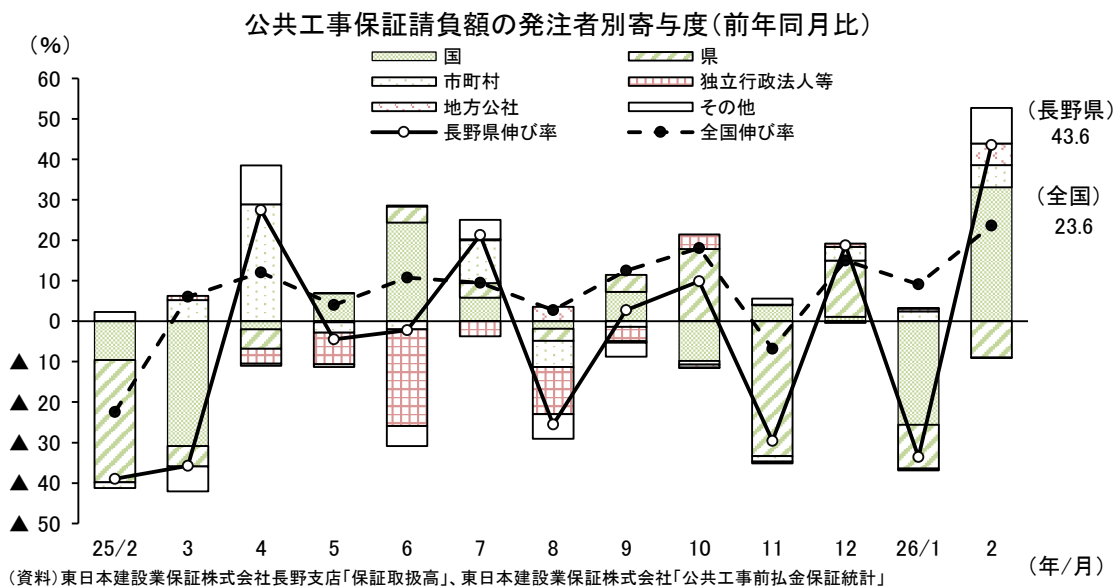
## 乗用車新車販売台数は2カ月連続で前年を下回る

- 2月の大型小売店売上高は、前年同月比+0.9%(売場面積調整前)となり、53カ月連続で前年を上回った。食料品は、コメや調味料等の販売価格の上昇などが続き、同+2.2%となった。衣料品は、物価上昇により節約志向がさらに高まっており、紳士服や子供服などで買い控えの動きが続き、同△7.9%となった。雑貨・その他も、化粧品等の買い控えなどにより、同△5.4%となった。
- 2月の乗用車新車販売台数は、前年同月比△8.2%と2カ月連続で前年を下回った。車種別にみると、小型車は前年同月比△1.0%と3カ月ぶりに、軽自動車は同△4.2%と5カ月ぶりに、普通車は同△16.1%と5カ月連続で、いずれも前年を下回った。



## 公共工事保証請負額は2カ月ぶりに前年を上回る

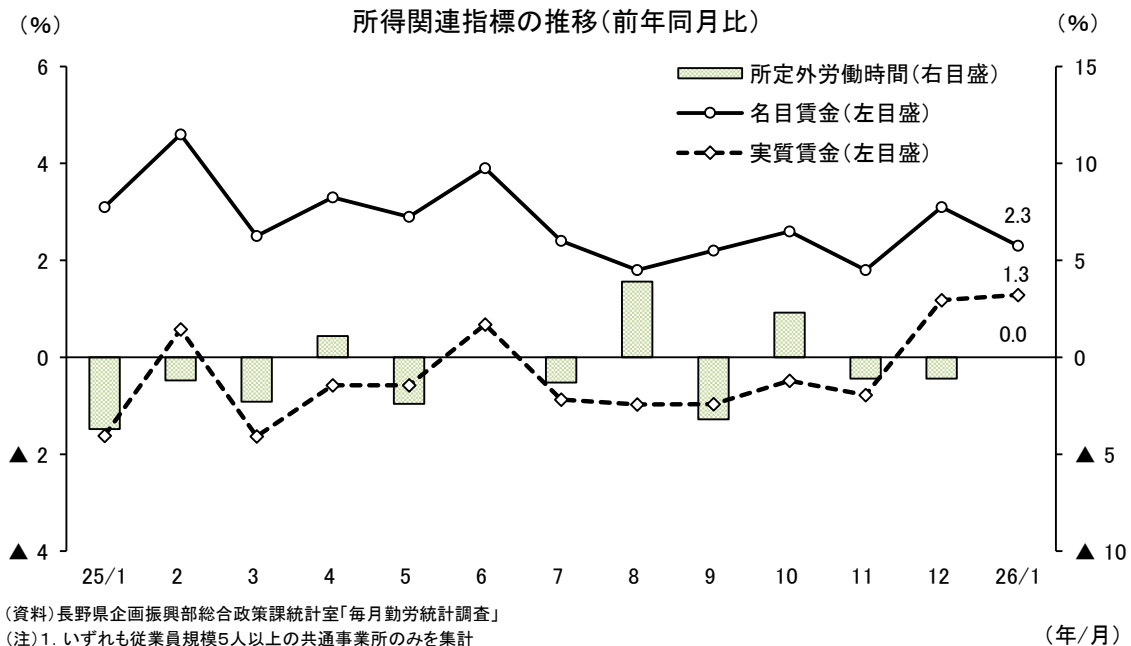
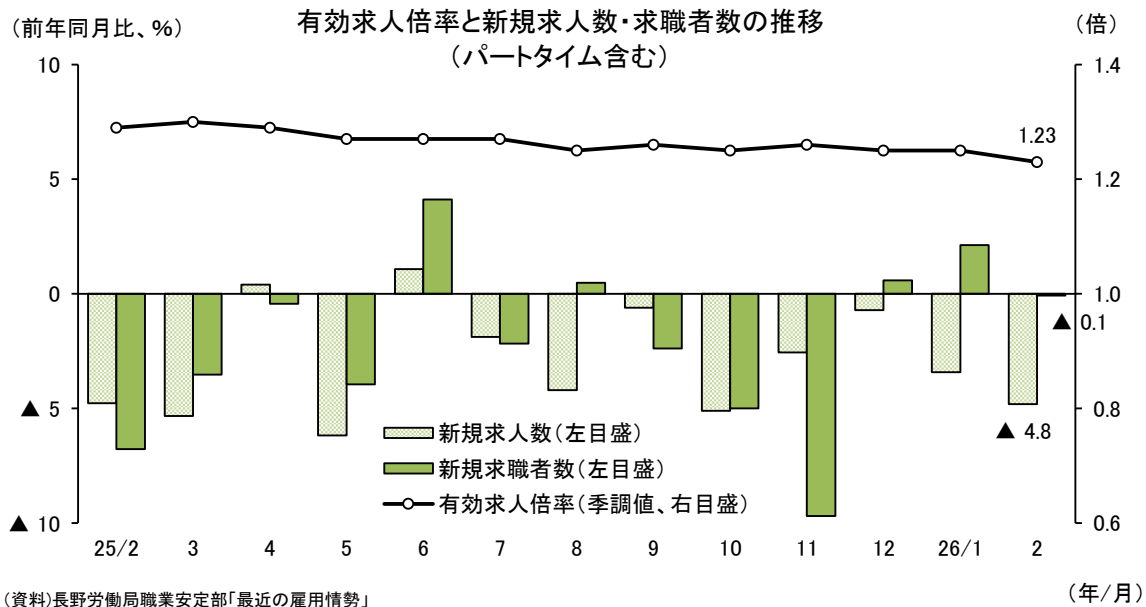
- 2月の公共工事保証請負額は、前年同月比+43.6%の112億2,500万円となり、2カ月ぶりに前年を上回った。発注者別にみると、県が同△17.1%、独立行政法人等が同△30.2%と減少したものの、国が同+230.5%、市町村が同+23.7%、その他が同+91.5%と増加した。
- 2月の新設住宅着工戸数は、前年同月比△0.6%の777戸と3カ月連続で前年を下回った。利用関係別にみると、給与が同+5700.0%と増加したものの、持家が同△21.1%、貸家が同△2.0%、分譲が同△22.3%と減少した。



# 雇用

## 有効求人倍率は2カ月ぶりに前月を下回る

- ・2月の有効求人倍率は、前月比△0.02ポイントの1.23倍となり、2カ月ぶりに前月を下回った。
- ・新規求人数(全数)は前年同月比△4.8%となり、8カ月連続で前年を下回った。このうち常用は同△4.1%、パートは同△5.7%となった。主要産業別では建設業が同+8.5%、宿泊業、飲食サービス業が同+4.6%、製造業が同+1.2%となるなど8産業は前年を上回ったが、サービス業が同△10.4%、卸売業、小売業が同△16.6%、生活関連サービス業、娯楽業が同△4.0%となるなど5産業は前年を下回った。
- ・新規求職者数(全数)は、前年同月比△0.1%と3カ月ぶりに前年を下回った。
- ・1月の名目賃金は前年同月比+2.3%と57カ月連続で前年を上回り、実質賃金は同+1.3%と2カ月連続で前年を上回った。所定外労働時間は同±0.0%と、前年と同水準だった。



# 県内地域別・近隣都県別有効求人倍率

## 有効求人倍率は中信を除き前年を下回る

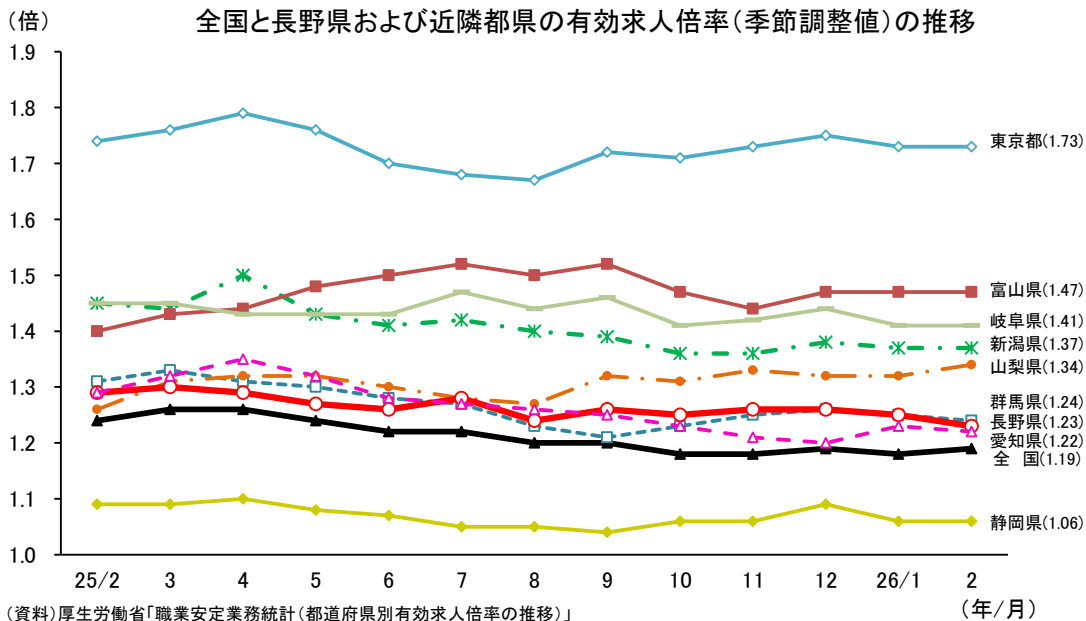
- ・2月の地域別有効求人倍率(全数)は、北信が前年同月比△0.07ポイントの1.24倍、東信が同+0.00ポイントの1.29倍、中信が同△0.14ポイントの1.27倍、南信が同△0.03ポイントの1.28倍となった。
- ・職業安定所別有効求人倍率(全数)は、上田が1.36倍と最も高く、次いで伊那が1.35倍となった。
- ・長野県の有効求人倍率は65カ月連続で全国を上回り、順位は前月から1つ下げ16位となった。

長野県職業安定所別有効求人倍率(実数値)(26年2月)

地域	北 信(1.24) (前年同月比▲0.07)				東 信(1.29) (前年同月比+0.00)		中 信(1.27) (前年同月比▲0.14)			南 信(1.28) (前年同月比▲0.03)		
	長野	篠ノ井	飯山	須坂	上田	佐久	松本	木曾福島	大町	飯田	伊那	諏訪
全 数	1.33	1.13	1.08	1.20	1.36	1.23	1.28	1.32	1.20	1.31	1.35	1.20
前年同月比 (ポイント)	▲ 0.04	▲ 0.08	+ 0.05	▲ 0.37	+ 0.10	▲ 0.09	▲ 0.15	▲ 0.01	▲ 0.06	▲ 0.13	+ 0.14	▲ 0.10
うち常用	1.16	1.08	0.99	1.12	1.25	1.25	1.16	1.28	1.16	1.25	1.22	1.12
前年同月比 (ポイント)	▲ 0.05	▲ 0.09	+ 0.00	▲ 0.34	+ 0.09	▲ 0.10	▲ 0.14	▲ 0.09	▲ 0.08	▲ 0.12	+ 0.15	▲ 0.07

(資料)長野労働局職業安定部「最近の雇用情勢」

(注)実数値とは、新規学卒を除きパートタイムを含む季節調整前の原数値



(資料)厚生労働省「職業安定業務統計(都道府県別有効求人倍率の推移)」

(注)1. 新規学卒を除きパートタイムを含む

2. 長野県の近隣都県および長野県と経済規模、産業構造が類似している県